

日本在宅 医学 会 誌

Vol.15 No.2

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言 「地域包括ケア」展開における本学会の役割	前田 憲志	1	
●原 著			
訪問診療を行っていた神経難病患者の遺族が、遺族訪問で語った内容に関する探索	木村 琢磨, 今永 光彦, 川井 充	5	
HIV陽性者への在宅療養支援未経験の訪問看護師におけるHIVケアに関する認識	加瀬田暢子, 前田ひとみ, 島田 恵, 宮腰由紀子	15	
●報 告 多職種連携に有用と思われる新しい情報共有システム「キュアケアネット」	川上 秀一, 川上 咲子, 齋藤 俊	21	
●特 集 「地域包括ケア」(責任編集 坂本 仁)			
地域包括ケアシステムにおける医療と介護の協働の重要性	太田 貞司	25	
地域包括ケアシステムと在宅医療	林 拓男	31	
2025年の地域包括ケア体制の構築をめざして—在宅の質と地域包括支援センターの活動—	平田 好文	39	
船橋市における地域包括ケアに向けた取り組み	深澤 元晴, 松岡かおり, 中村 順哉, 山本 伸一, 永谷 計, 高木 恒雄 石川 誠, 高原 善治, 高橋 誠, 姫野 泰啓, 玉元 弘次, 深沢 規夫	47	
地域包括ケアシステムの基盤は人と人とのつながり—札幌市「西区在宅ケア連絡会」の活動について—	坂本 仁	61	
地域医療と地域包括ケアシステムへの課題—八幡平市地域医療懇談会の活動を通して—	及川 忠人	69	
地域包括ケアの実現に向けて—「虹ねっと・虹ねっと連絡会」が果たす役割—	前防 昭男	77	
顔の見える多職種連携「多摩在宅ケアネットワーク」の活動報告—在宅緩和ケア・在宅看取り普及のための戦略の一環として—	井尾 和雄	83	
スムーズな地域包括ケアシステムを進めるために—“在宅医ネットよこはま”の活動を通して—	岡田 孝弘	93	
東大和市・武蔵村山市における医療介護連携と地域包括ケア	森 清	101	
査読者一覧	111	日本在宅医学会雑誌投稿規定	115
投稿承諾書	116	連絡票	117
編集後記	118		

「地域包括ケア」展開における 本学会の役割



日本在宅医学会 代表理事 前田 憲志

高齢化進展の対策として、地域での生活、介護、医療を包括して対応する「地域包括ケア」方式が打ち出され、効果的な展開を目指す試みが各地で行われています。

全国に面展開し、国民の付託に答えるためには、従来から「地域医療」に携わられている「かかりつけ医」の皆様方と協働して、面展開を加速することが不可欠であります。

昨年の「在宅医療連携拠点事業」においても幾つかの試みが行われ、交流が深められましたが、「かかりつけ医機能に在宅医療は含まれる」、したがって「原則としてかかりつけ医全員参加で地域包括ケアに取り組む」事を宣言されるに至った地域も見られました。

しかし、全員参加については「強力な支援体制の構築が必要である」事も重要な課題の一つとして認識されました。この「支援体制の構築」については幾つかの試みが報告されています。その一つに「在宅医療支援アセスメントシステム構築」があり、この方式では、地域の中規模の病院に「疾患に対する評価と各脆弱性に対する評価と対処法」を担当在宅医と連携チームに説明の上、円滑に在宅医療を開始して頂き、また急性合併症の発症により入院を要するときは後方支援ベッドの機能をも病院に荷なって頂く方式です。この方式もほぼ1年間の経験から、アセスメント病院と在宅担当医や連携チームとの連携のやりとりにはかなりの手数が必要であり、その調整機能を担う機構として在宅医療の経験が豊富な「在宅医療支援ハブ医療機関」の調整機能が必要であるとの報告がなされています。この調整役の「ハブ医療機関」の構成員として、在宅医療の受け入れ先のかかりつけ医の状況に応じて、症例毎に医療・ケアの支援が可能な経験豊富な医師や多職種のメンバーが必要であるとされています。日本在宅医学会としてもこれらの流れを踏まえて、在宅医療支援ハブ運営のリーダーとしての医師として「在宅医療認定専門医」が適していると考えており、その養成を加速するとともに、当学会では準会員としてリーダー医と共に地域支援の多職種のリーダーとなる人材育成にも力を入れてまいります。在宅医療の症例は、主たる疾病や障害の他に多くの機能の脆弱性を有しています。しかし、これらの多方面に亘る脆弱性を認識し、強化することにより、主たる疾病等の治療効果にも良い影響を与え、安定した在宅療養に繋がることはよく経験するところです。しかしこれらの脆弱性については、対処法はまだ定式化されていない部分が多く、今後の重要な課題であります。

当学会は有能な人材育成とともに、研究活動にも力を入れて行かねばなりません。臨床分野においては研究委員会を中心に幾つかの臨床課題について検討を行っていますが、在宅医療に関する論文はまだ少なく、ガイドライン作成についてはまだ困難な状態にあります。

日常の診療がご多忙とは存じますが、貴重な症例をおまとめ頂き、ご投稿頂ますようお願い申し上げます。また、本学会では、在宅医療に従事されておられる「かかりつけ医」の皆様方には、「実践者コース」による専門医取得のコースが用意されています。

今後、益々必要性の増す分野であり、多くの方々のご参加を期待するものであります。